

## 2026 年度入学式 学長式辞

### 京都女子大学で学ぶということ～京女スピリッツの継承～

新入生の皆さん、そして大学院へ進学された皆さん、ご入学・ご進学おめでとうございます。皆さんの京都女子大学・大学院へのご入学・ご進学を心より歓迎いたします。

本日、大谷範子名誉学長さま、芝原玄記理事長・学園長さまのご臨席のもと、ご来賓の皆さまにもご列席いただき、2026 年度入学式を無事挙行出来ますことは、教職員一同にとりまして大きな喜びでございます。

またご家族の皆様、入学式にご列席いただき有難うございます。長年慈しみ、その成長を支えてこられましたお嬢様の京都女子大学・大学院へのご入学・ご進学を、大学を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、今、明日から始まる新しい大学生活に期待と、そして少しばかりの不安で胸を膨らませておられることと思います。が、ここで少し立ち止まって、今一度、大学で学ぶということ、特に京都女子大学で学ぶということについて考えていただきたいと思えます。

皆さんは、昨年、本学が発出しました「女子大学宣言」を読んでいただいたでしょうか。宣言に共鳴して本学に入学して下さった方もおられるかもしれませんね。実はあの宣言には本学の創立に関わる歴史的な背景があります。

本学の前身である京都女子高等専門学校は 1920 年、今から 106 年前の 4 月にこの地でスタートしました。当時、女性のための高等教育機関は、キリスト教系を中心に全国に 10 校余りしかなく、仏教系の女子高等教育機関としては初めての設立でした。

京都女子高等専門学校の設置に情熱を燃やし、尽力したのは 3 人の女性たち、甲斐和里子、大谷籌子、九條武子、そして 30 万人の全国の仏教婦人会の会員たちでした。

大谷籌子は、本学の建学の精神である仏教の平等思想に根差して「男女平等機会均等」な社会の実現とその実現のため女性の高等教育機関の設置を念願されました。残念ながら大谷籌子は 1911 年 28 歳の若さで夭折されましたが、その遺志を継いで女子大学設立運動を主導されたのが九條武子です。

九條武子は 大谷籌子の亡き後、遺志を継いでその 1 周年忌の 1912 年に仏教婦人会連合本部部長として「女子大学設立趣意書」を公表されました。その後、全国の仏教婦人会を行脚

し、それを受けて全国 30 万人の会員が設立運動を展開しました。これが本学設立の契機となりました。

当時の日本は明治民法で家制度が確立した時代であり、家父長制の下女性には参政権はもとより相続の権利も、さらには離婚請求の権利も認められない法的に全く無力な時代でした。「女性に教育は無用」と言われる時代にあって、門主の実の妹という後ろ盾があるにしても女性で、しかも 24 歳という若さで行動し、多数の会員を組織された実行力と勇気には敬服を禁じ得ません。

そして京都女子大学は、2020 年、創基 100 年を期して第 2 期グランドビジョンに、本学の教育理念として「ジェンダー平等の実現に貢献する女性の養成」を掲げました。大谷篤子ら女性たちが「男女平等機会均等」を願ってから百数十年も経つにもかかわらず、ジェンダーギャップ指数 118 位に示されるように、日本は男女の格差が世界から見ても大きく開いた国であるからです。

とりわけ政治領域 125 位、経済領域 112 位の順位が際立って低くなっています。教育の分野でも 66 位です。義務教育や高校の進学率では男女格差はありませんが、高等教育での男女格差や教員の男女格差が大きいことが影響しています。

例えば大学進学率をみても、全国平均で女子は男子より 6%低くなっています。さらにこれを地域別にみると、女子の進学率が男子より高いのは東京都と徳島県です。北海道や埼玉県、山梨県、鹿児島県は 10%以上男女の格差が開いています。なお、先進諸国といわれる OECD49 ヶ国中で女子の進学率が男子より低い国は、インドと日本の 2 か国だけ、世界は女子の進学率の方が高いのです。今年度、新たな奨学金として「京都で学ぶ特待生制度」を設けたのは、このような状況に鑑み、女性の自由な進路選択を少しでも援助したいと考えたからです。

ところで皆さんもご存じのように日本は 2011 年以降、人口が減少し続けています。皆さんが 60 歳になられる頃の 2065 年には、高齢化率は 40%に近づき、高齢者 1 人をほぼ 1 人で支える社会となっています。

明日からの大学生活を前に、希望に胸を膨らましておられる皆様に、このような厳しい現実をお話することを躊躇しないわけではありません。しかし避けることのできない現実をしっかりと直視し、そして皆さん方の使命を自覚していただきたいと考え、あえて話させていただきます。なぜならこの日本の社会の未来に希望をもたらす可能性が、まさに皆さん方にあるからです。

人口減少の結果、2040年には労働力人口が1000万人以上減少すると推計されています。しかし、もし女性の労働力率が男性と同等になれば、減少を303万人に抑えることができます。さらにこの労働力人口の減少は、他の条件が同じであると仮定すると、GDP、すなわち国の生産力を57.8兆円、10.8%低下させます。しかし女性の労働力率が男性のそれまでに上昇すると、減少幅を40兆円底上げすることができるのです。

先ほどジェンダーギャップ指数で経済領域の順位が112位と申し上げました。順位を下げている理由の一つに男性と女性の給与の格差があります。これを給与総額（非正規雇用者も含む）に直すと、男性の給与総額と女性の給与総額の差は何と80兆円にも上ります。見方を変えれば、ジェンダー平等が進展して女性の働き方が変われば、人口減少による日本経済の落ち込みを埋めることができるのです。

そうです、避けることが出来ない人口減少という日本の現実によって日本が貧しくなるかどうかは、皆さん方女性の生き方にかかっているといっても過言ではありません。

もうお分かりいただけたと思います。皆さんが大学で学ぶ理由、とりわけ京都女子大学で学ぶ理由がここに 있습니다。同時にジェンダー平等の実現を教育目標に掲げる意味もご理解いただけたでしょう。ジェンダー格差の解消に貢献し、日本社会の未来を支える担い手を京都女子大学は育てようとしているのです。

とても私には出来ない、と気後れする方もおられるかもしれませんが。しかし京都女子大学での4年間の学びは、必ず皆さん方に自信をもたらします。そのために学科の専門科目はもとより多彩な学びの仕組みを用意しています。

まず第1に大学図書館です。本学の図書館の開架スペースには約20万冊の図書が並んでいます。4層の吹き抜け空間を、本の背表紙を眺めながら探検してみてください。皆さんが知らない知識の広大な世界が広がっています。

また共通領域では、幅広い領域の興味深い科目が開講されています。科学の進展によって専門分化が進んだ現代社会において、柔軟な思考や問題解決能力、さらにイノベーションを生み出す基盤として幅広い教養が産業界においても求められています。各学科の専門を深める学びや資格取得の学修に加えて、不確実性の高まる現代社会において求められる幅広い教養を身につけるよう努めてください。

さらに共通領域には副専攻プログラムが設けられています。ジェンダースタディーズプログラム、グローバル英語プログラムなど、一定の単位取得で副専攻としての履修証書が発行されます。就職活動でよく問われる「大学時代に力を入れたこと（ガクチカ）」にも有効な学びです。

この他、授業以外にも、例えば、学生の主体的活動を支援する「らしつよチャレンジ」、あるいはジェンダー教育研究所の学生リーダーの活動、さらにはクラブやサークル活動、あるいは大学祭実行委員会など、皆さんが力を発揮し、成長する機会を用意しています。

明治末の頑強な男性支配の社会にあって、「男女平等機会均等」を求めて行動した大谷篤子や九條武子の「チャレンジする勇気と知性」を私たちは「京女 Spirits」と名付け、後続く学生の皆さんにその継承を訴えています。

明日から始まる大学生活では、広い世界に飛び出し様々な体験に挑戦しましょう。そして夢を大きく持ち、しっかりと学んでください。皆さんは限りない潜在力を秘めておられるのです。京都女子大学は、皆さんの限りない力を引き伸ばすよう、励まし、成長する機会を提供し、そして鍛えます。

皆さんの新たな世界へのチャレンジと成長を期待しまして入学式の式辞といたします。本日は誠におめでとうございます。

2026年4月2日

京都女子大学 学長 竹安栄子